

## ポスター発表 4

**外国人児童生徒教育に対する指導者の意識調査  
—小中学校教員、支援員、ボランティアを対象として—**

小池亜子（国士舘大学）

古川敦子（大阪教育大学）

**研究の目的**

外国人児童生徒に対する指導実践力を育成するためのケース教材開発を目的として指導関係者の意識調査を行った。ケース教材は実践課題をストーリー性のある記述で示したケース（事例）とディスカッションを促進する設問で構成される。研修参加者が互いの知見や経験をもとに討論する形式で学ぶ教育活動であるため、外国人児童生徒の指導・支援に携わる関係者の意識調査から実践的課題を明らかにする。

**研究の価値・意義**

本研究が目指すケース教材は、関係者の思考力の伸長を重視し、直面する問題に対する判断力、問題を発見して解決する力を育成しようとするものである。そのため、実践的課題を内包する題材をケースとしてまとめることが重要である。本調査は、教員、支援員、ボランティアといった多様な関係者を対象として意識を探ることにより、外国人児童生徒教育の具体的実践課題を多面的に提示するものである。

**研究方法**

ケース教材の題材となり得る事例の収集を目的として、3地域（福岡、静岡、伊勢崎）の小中学校教員、支援員、ボランティアを対象として質問紙調査を実施した（2015年7月～12月）。どのような場面で困難を感じているか、支援や配慮が必要だと感じた場面、外国人児童生徒との関わりで嬉しさを感じた場面等、具体的事例を記述してもらい、事例や課題を分析・抽出した。

**結果と考察**

対象地域においては、特に保護者との対応において困難点を感じていることがわかった。一方、外国人児童生徒との関わりで嬉しさを感じた場面も数多く報告され、困難点とともに外国人児童生徒教育の教育的意義をケース教材開発に反映させる必要性が示唆された。